

2017（平成 29）年度  
自己点検・評価報告書

淑徳大学短期大学部

# 目次

## I 自己点検・評価体制

## II 本学の概要

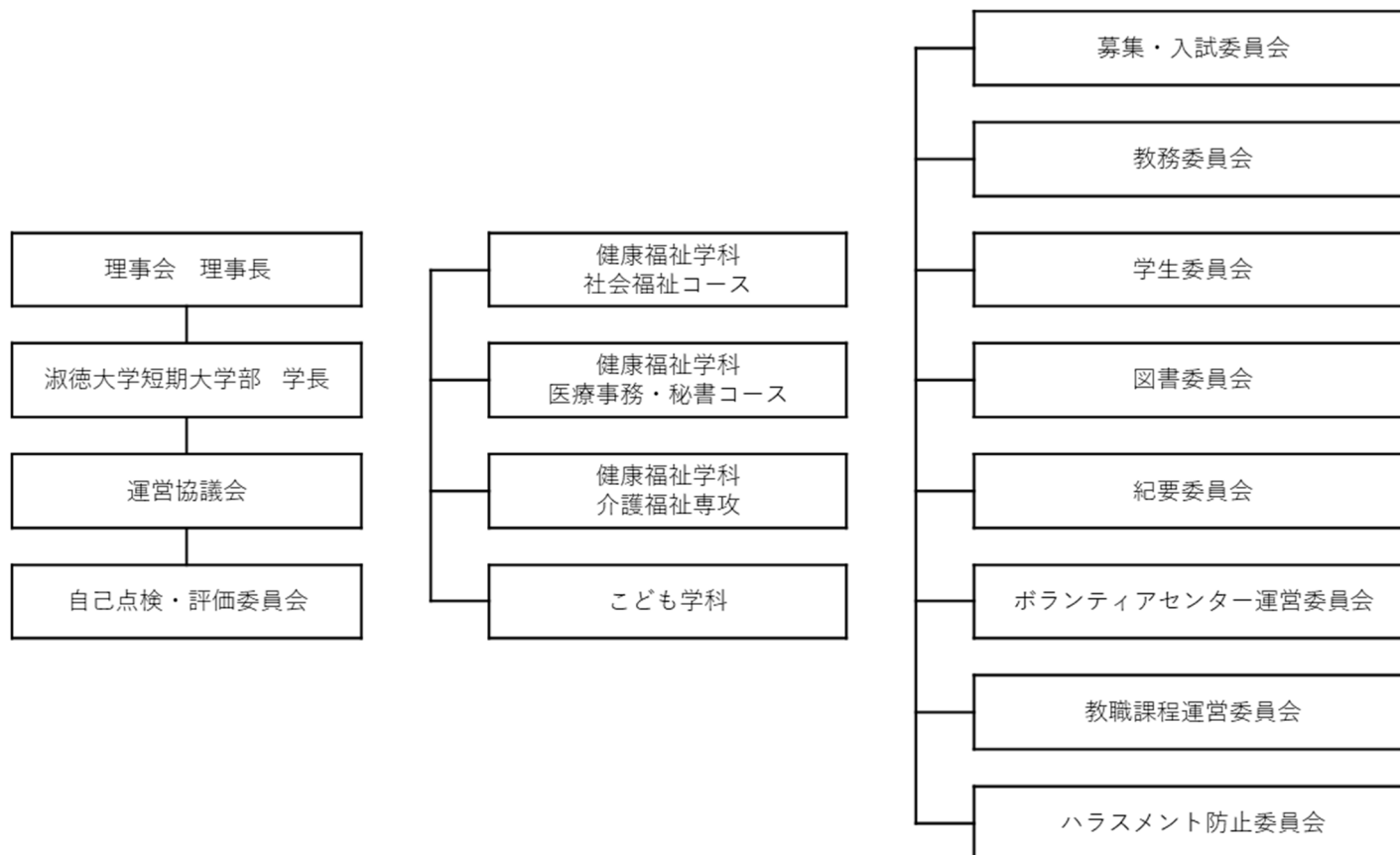
1. 建学の理念・精神・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
2. 教育組織と目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
3. 三つの方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
4. 教員組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
5. 学生に関する情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
6. 教育課程に関する情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

## III 学科・委員会 点検・評価

1. 社会福祉コース・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
2. 医療事務・秘書コース・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
3. 介護福祉専攻・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
4. こども学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
5. 募集・入試委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
6. 教務委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
7. 学生委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
8. 図書委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
9. 紀要委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
10. ボランティアセンター運営委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
11. 自己点検・評価委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
12. 教職運営委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
13. ハラスメント防止委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

## I. 自己点検・評価体制

本学は、教育・研究水準の向上を図り、本学に課せられた社会的使命を達成するため、教育・研究及びその運営について自ら点検・評価を行い、自己点検・評価報告書を作成する。



## II 本学の概要

### 1. 建学の理念・精神

「大乘仏教精神」をもって建学の精神としています。この「大乘仏教精神」を具体化し表現としたものとして「共生」の理念としています。人はもちろん、社会、地球に優しい心をもつこと。知恵を働かせ、民族や国境を越えて助け合いながら生きること。すべての生物を守り、いたわること。こうしたことは、時代や、社会の変化に関係なく、人が人として生きるための大切にしなければならない心であると考えています。

本学は、淑徳女学校創設時の「淑徳漲美」の伝統を守り、各個人の自立した生き方を仏教思想に基づき、共生の理念のもと、社会に貢献できる人材の育成と時代の変化に対応した教育を行っています。

本学は女子教育を実践する為に誕生しましたが、創立 60 周年を契機に男女共学にしました。

### 2. 教育組織と目的



#### 教育の目的（学則第1条）

本学は、大乘仏教精神に基づき、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、実質的な専門の学芸を教授研究し、教養のある人材を育成することを目的としています。

## 教育研究上の目的（学則第1条の2）

### 【健康福祉学科】

建学の理念を基礎として、現代の福祉ニーズに対応し、創造性を重視した教育を行い、福祉サービスを担う中核的人材の育成を目的とする。

（社会福祉専攻）社会福祉全般の専門的知識・技術をもって、より豊かな福祉サービスを提供しうる社会福祉従事者、医療事務従事者の育成を目的とする。

（介護福祉専攻）現代の介護サービスに対応すべく専門的知識・技術をもって、人間の尊厳を尊重した人間性溢れる介護福祉士の養成を目的とする。

### 【こども学科】

現代社会のニーズに応えるべく、新しい教育・保育・子育て支援を創造し、子ども分野の専門的知識、技術を備え、実践力を発揮できる人材の育成を目的とする。

## 3. 淑徳大学 短期大学部 三つの方針

平成28年3月31日付文部科学省高等教育局長より通知のあった「学校教育法施行規則の一部を改正する省令の公布について」を受け、本学では三つの方針を策定致しました。

### 1.卒業認定・学位授与の方針(DP：ディプロマ・ポリシー)

淑徳大学短期大学部では、62単位の単位修得と必修等の条件を充たし、以下の知識と能力を修得した学生に卒業を認定し学位を授与します。

- (1) 本学の目指す建学の精神「大乘仏教精神」に基づく共生の理念と「感恩奉仕」を十分に理解し、自らの人格向上及び社会福祉・教育の増進に寄与できる能力を修得している。
- (2) 現代社会における多様な問題に対して多面的な視点から論理的に分析し、問題を解決する能力を身に付けている。
- (3) 専門職者としての高い倫理観と使命感を持ち、他者と協働できるコミュニケーション能力を有している。
- (4) 各専門職における必要な知識・技能を有し、社会貢献できる能力を有している。

## 2.教育課程編成・実施の方針(CP：カリキュラム・ポリシー)

本学では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。また、建学の精神を身に付けるという教育理念に基づき、「宗教」「福祉」「教育」の三位一体を基本とした教育を行います。

### 1) 教育内容

- (1) 卒業必修科目である「宗教」、「共生論」により建学の精神について学ぶと共に、その具体的実践としての地域貢献、「ボランティア活動」を必須とすることで、実社会に主体的に参加する心構えや地域との繋がりなどの共同的な姿勢について体験的に学びます。
- (2) 教養教育を担う主要な科目群である教養科目を複合的に学ぶことで、専門的な学修に繋がる知識や技能と主体的に学ぶ姿勢・態度、社会人として必要な思考・行動様式を身に付けます。
- (3) 専門教育においては、各専攻、コースの体系性に基づき、それぞれのカリキュラムマップにおける専門科目を配置します。
- (4) 授業で修得した知識及び理論の実践の場として、現場実習を実施します。
- (5) 1年次の演習科目（ゼミ）では、初年次教育等を通して短大への適応をはかり、基本的な学習スキルと社会に出てから求められるコミュニケーション・スキルを修得します。2年次の演習科目（ゼミ）では、卒業研究を必修とし、専門科目を中心とする教育内容の統合と総合化を行います。
- (6) 卒業後の希望進路に応じた履修モデルを提示するとともに、学生の適性やキャリア形成を見据えた組織的なキャリア教育を展開します。

### 2) 教育方法

- (1) 知識の修得だけでなく、主体的な学びの力を高めるために、参加型授業や授業外の積極的な学修などアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実践します。
- (2) シラバス（授業計画）には、卒業認定・学位授与の方針に基づく学修の到達目標、評価基準、授業内容、授業外学修等を具体的に記載します。
- (3) 実学教育を重視し実践するために、各専門職に応じた現場実習を段階的に行います。

### 3) 評価

- (1) 学年ごとの単位取得率の評価を行うとともに、GPAによって教育課程全体を通した学修成果の達成状況を査定します。また、GPAによる学生個人の評価を学修支援・指導に活用します。なお、個々の科目の単位認定にあたっては、到達目標の内容を修得しているか否かに留意し、厳格な成績評価を行います。
- (2) 上記(1)によって到達目標に達していない学生を把握し、再試験の機会を設けることによって、不足分の学修を自ら行えるようにします。
- (3) 希望する職業へ就職できたかどうか（就職率、資格・免許を活かした専門領域への就業率）、又は進学等の成否について確認し、学修成果の達成状況を査定します。
- (4) 授業評価アンケートを実施し、個々の授業内容、授業方法の改善や組織全体として授業が円滑に運営されているかどうかの検証を行います。

### 3.入学者受入れの方針(AP：アドミッション・ポリシー)

本学は、卒業認定・学位授与の方針及び教育課程の編成・実施の方針との関連性を踏まえて、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を定めます。

#### 1) 求める学生像

- (1) 本学の建学の精神である共生の理念を理解している。
- (2) 高等学校で履修した学習内容について理解し、主要科目に関する基本的な知識を修得できている。
- (3) 本学の教育方針及び教育分野に興味と関心を持ち、本学での学修に目的と意欲を有している。

#### 2) 入学選抜の方法

次の3つの方法を単独又は複数組み合わせ選抜を行う。

- (1) 高等学校等での評定平均値及び活動の履歴・成果等に関する書類審査
- (2) 面接
- (3) 高等学校等での履修科目に対する学力検査

#### 3) 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度

高等学校での学習において、科目学習における基礎的な知識の修得及び学習意欲の保持が望まれる。

#### 4. 教員組織 (2017年5月1日現在)

	学部・学科	課程等	教員数(職級別教員数)
淑徳大学短期大学部 Shukutoku University Junior College	こども学科 (Department of Early Childhood education and childcare)		16名(教授6名・准教授8名・講師2名)
	健康福祉学科 (Department of Health and welfare)	社会福祉専攻 (Social welfare Speciality)	5名(教授2名・准教授1名・講師1名・助教1名)
		介護福祉専攻 (Care welfare Speciality)	4名(教授3名・准教授0名・講師0名・助教1名)

#### 5. 学生に関する情報

淑徳大学短期大学部	こども学科	入学者数	収容定員	在学者数	収容定員充足率
		260名	500名	500名	1.00
淑徳大学短期大学部	健康福祉学科	入学者数	収容定員	在学者数	収容定員充足率
		91名	180名	166名	0.92

2017年5月1日現在

#### 学生の状況

	入学者推移	退学・ 除籍者数	中退率	留年者数	社会人 学生数	留学生数及び 海外派遣学生数
(対象年度)	(27・28・29)	(H28)	(H28)	(H29)	(H29)	(H29)
こども学科	240・250・260	10	2.1%	1	1	0
健康福祉学科	86・76・91	0	0%	1	2	3



## 就職及び卒業後の進路

	卒業生数	就職希望者数	就職者数	進学者数	就職率
こども学科	235名	226名	226名	0名	100%
健康福祉学科	74名	67名	67名	3名	100%

2017年5月現在

## 6. 教育課程に関する情報

学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準

学科・専攻		修業年限	卒業要件単位数			学位	
				必修	選択		計
こども学科		2年	教養	6	8	62	短期大学士（教育・保育）
			専門	4	44		
健康福祉学科	社会福祉専攻		教養	6	10	62	短期大学士（社会福祉）
	介護福祉専攻		専門	6	40		
			教養	6	10	62	
	専門		6	40			

健康福祉学科 社会福祉コース カリキュラムマップ

DPは、ディプロマポリシーを示します。

		DP (4) 各専門職における必要な知識・技能を有し、社会貢献できる以下の能力（社会福祉分野における基礎的な能力・知識・技術）を有している。									
		①人間と社会の関係及び、現代社会における福祉制度の意義や理念等について理解している。	②統合的かつ包括的な相談支援の知識と技術を修得し、利用者支援ができる。	③地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術を修得し、福祉ネットワークづくりができる。	④専門的対人援助職である社会福祉士に必要な「理論・制度・サービスの理解」「援助の方法・技術の理解」についての知識・技術を統合的に修得し、利用者に対する支援ができる。	⑤福祉専門職としての基本的態度及び、人権を尊重する高い倫理観を有している。					
		DP (3) 専門職としての高い倫理観と使命感を持ち、他者と協働できるコミュニケーション能力を有している。									
		DP (2) 現代社会における多様な問題に対して多面的な視点から論理的に分析し、問題を解決する能力を身につけている。									
		教養科目				社会福祉士関連科目					
		建学の精神に関する科目	学部共通教養科目	人・社会・生活と福祉の理解に関する知識と方法	統合的かつ包括的な相談支援の理念と方法に関する知識と技術	地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術	サービスに関する知識	実習・演習	介護職員初任者研修	その他	
2年	後期		△経済学 ▲△権利擁護と成年後見制度 <sup>#1</sup> △情報処理演習Ⅱ △英語Ⅳ △英語Ⅵ	◇△社会福祉概論		◇△福祉サービスの組織と経営	▲△権利擁護と成年後見制度 <sup>#1</sup>	◇△ソーシャルワーク演習Ⅴ ◇△ソーシャルワーク実習指導Ⅲ		△福祉概論	
	通年									◎社会福祉演習Ⅱ	
	前期		△英語Ⅲ △英語Ⅴ △就職支援講座		◇△ソーシャルワークの方法Ⅱ ◇△ソーシャルワークの方法Ⅳ	◇△地域福祉Ⅱ ◇△福祉行政と福祉計画	◇△社会保険Ⅱ ◇△公的扶助 ▲△就労支援サービス ▲△司法福祉 ◇△児童・家庭福祉サービス ◇△保健医療サービス	◇△ソーシャルワーク演習Ⅳ ◇△ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ◇△ソーシャルワーク演習Ⅲ ◇△ソーシャルワーク実習			
1年	後期	◎宗教	△文学 ◆△心理学 <sup>#1</sup> △情報処理演習Ⅲ ◎英語Ⅱ △就職支援講座	◆△心理学 <sup>#1</sup> ◇△社会福祉概論Ⅱ	◇△ソーシャルワーク概論Ⅱ ◇△ソーシャルワークの方法Ⅰ ◇△ソーシャルワークの方法Ⅲ	◇△地域福祉Ⅰ	◇△社会保険Ⅰ ◇△高齢者福祉サービス <sup>#2</sup> ◇△障害者福祉サービス <sup>#2</sup>	◇△ソーシャルワーク演習Ⅱ ◇△ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	◇△高齢者福祉サービス <sup>#2</sup> ◇△障害者福祉サービス <sup>#2</sup>	◎△△高齢者福祉サービス <sup>#2</sup> ◎△△障害者福祉サービス <sup>#2</sup> ◎△△福祉環境 <sup>#3</sup> ◎△△生活支援技術Ⅰ ◎△△生活支援技術Ⅱ (集中授業)	◎△△福祉概論 <sup>#3</sup> △△社会福祉の歴史 △インテリア・デザイン △手話によるコミュニケーションⅡ △海外社会福祉事情 (集中授業)
	通年		△健康科学論 △体育実技							◎社会福祉演習Ⅰ	
	前期	◎共生論	◎英語Ⅰ △哲学 ◆△社会学 <sup>#1</sup> △法学(日本国憲法) △情報処理演習Ⅰ	◆△医学概論 ◆△社会学 <sup>#1</sup> ◎△社会福祉概論Ⅰ	◇△ソーシャルワーク概論Ⅰ			◇△介護福祉 <sup>#2</sup>	◇△ソーシャルワーク演習Ⅰ	◇△△介護福祉 <sup>#2</sup> ◎△△介護の理解Ⅰ ◎△△介護の理解Ⅱ	◇△△障害者福祉概論 △手話によるコミュニケーションⅠ

※開講学年等は、変更になる場合があります。

- ◎卒業必修科目
- ◇社会福祉士の修科目
- ▲社会福祉士選択必修科目②
- △卒業選択科目
- ◆社会福祉士選択必修科目①
- 介護職員初任者研修必修科目

- \*1印は、教養科目・専門科目(社会福祉士関連科目)と重複
- \*2印は、社会福祉士関連科目と介護職員初任者研修関係科目と重複
- \*3印は、介護職員初任者研修関係科目と専門科目(その他)と重複

健康福祉学科 医療事務・秘書コース カリキュラムマップ

DPは、ディプロマポリシーを示します。

		DP (4) 各種専門職における必要な知識・技能を有し、社会貢献できる以下の能力（社会福祉、医療事務分野における基礎的な能力・知識・技術）を有している。										
		① 医療保険制度や診療報酬の仕組みを理解し、診療報酬請求事務に関する知識と基礎的能力を身につけている。	② 医療事務職に必要な基礎医学や医療用語、医療関連法規の知識を修得している。	③ 医療マネジメントに関する基礎的知識及び経営課題を発見・解決するための思考力、分析力を有している。	④ 診療録の内容精査とICDコーディング技能を有している。	⑤ 医療情報システムに関する基礎的知識を有し、医療情報技術の推進役となることができる。	⑥ 医療従事者に求められる高い倫理観及びホスピタリティマインドを有している。					
		DP (3) 専門職としての高い倫理観と使命感を持ち、他者と協働できるコミュニケーション能力を有している。										
		DP (2) 現代社会における多様な問題に対して多面的な視点から論理的に分析し、問題を解決する能力を身につけている。										
		教養科目		医療事務・秘書関連科目								専門関連科目
		建学の精神に関する科目	学部共通教養科目	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	その他
2年	後期		△英語Ⅳ △英語Ⅵ △権利義務と成年後見制度 △○経済学 △情報処理演習Ⅲ	△医療事務実践Ⅱ △介護請求事務Ⅱ		△医療データ解析演習 △簿記会計実践	△ICDコーディング演習Ⅱ	△医療情報システム △経営情報論				△福祉情報論
	通年										◎社会福祉演習Ⅱ	
	前期		△英語Ⅲ △英語Ⅴ	△医療事務実践Ⅰ △特別南無請求事務 △歯科医療事務Ⅱ △介護請求事務Ⅰ	△医事関係法規 △薬事関係法規	△医療マネジメント論 △簿記会計入門	△ICDコーディング演習Ⅰ	△医事コンピュータ演習Ⅲ △医事コンピュータ演習Ⅳ △情報技術	△医療秘書概論	△医療施設実習		△保健医療サービス論
1年	後期	◎宗教	◎英語Ⅱ △○心理学 △○社会学 △情報処理演習Ⅱ	△医療事務基礎Ⅱ △医療事務基礎Ⅳ △医療事務基礎Ⅵ △歯科医療事務Ⅰ	△実学入門	△医療事務演習Ⅰ	△DPC概論	△医事コンピュータ演習Ⅰ △医事コンピュータ演習Ⅱ	△ホスピタリティ・コミュニケーション △手話によるコミュニケーションⅡ	△医療施設実習指導		△○社会福祉概論Ⅱ △福祉情報論 △インテリア・デザイン論 △高齢者福祉サービス論 △海外社会福祉事情(集中授業)
	通年		△健康科学論 △体育実技								◎社会福祉演習Ⅰ	
	前期	◎共生論	◎英語Ⅰ △文学 △哲学 △○法学(日本国憲法) △情報処理演習Ⅰ	△医療事務基礎Ⅰ △医療事務基礎Ⅲ △医療事務基礎Ⅴ	△○医学概論					△手話によるコミュニケーションⅠ		◎○社会福祉概論Ⅰ △○介護福祉論

※開講学年等は、変更になる場合があります。

◎卒業必修科目 △卒業選択科目 ○社会福祉主事選択科目

健康福祉学科 介護福祉専攻 カリキュラムマップ

DPは、ディプロマポリシーを示します。

		教養科目		専門科目					
		学術共通教養科目		介護福祉士関係					
		建学の精神に関する科目	学術共通教養科目	人間と社会の領域科目	介護の領域科目	こころとからだのしくみの領域科目	医療的ケアの領域科目	専門関連科目	
2年	後期		△情報処理演習Ⅱ △文学 △経済学 △情報処理演習Ⅲ △英語Ⅳ △英語Ⅵ	△○経済学	△○介護予防とリハビリテーションの基本 △○コミュニケーション技術Ⅱ △○家庭生活基本技術Ⅱ △○介護過程演習Ⅱ	△○介護総合演習Ⅲ	△○認知症の理解Ⅱ △○障害の理解Ⅱ		
	通年		△健康科学論 △体育実技		△○生きがい生活支援技術 △○介護過程演習Ⅰ			◎社会福祉演習Ⅱ	
	前期		△○法学(日本国憲法) △英語Ⅲ △英語Ⅴ	△○法学(日本国憲法) △○社会保険論Ⅱ	△○介護の基本Ⅱ △○障害者介護の基本 △○コミュニケーション技術Ⅰ △○日常生活介護技術Ⅱ △○生活環境支援技術Ⅱ △○家庭生活基本技術Ⅰ	△○介護実習Ⅳ △○介護実習Ⅲ △○介護総合演習Ⅱ	△○認知症の理解Ⅰ △○障害の理解Ⅰ	△○医療的ケア演習	
1年	後期	◎宗教	◎英語Ⅱ △○社会学 △就職支援講座 △心理学	△○社会学 △○人間の理解Ⅱ △○社会保険論Ⅰ	△○日常生活介護技術Ⅱ △○生活環境支援技術Ⅰ	△○介護実習Ⅱ	△○発達と老化の理解Ⅱ △○こころとからだのしくみⅡ △○こころの理解	△○医療的ケアⅡ △○医療的ケアⅢ	△社会福祉の歴史 △手話によるコミュニケーションⅡ
	通年				△○介護の基本Ⅰ △○介護過程概論	△○介護総合演習Ⅰ			◎社会福祉演習Ⅰ
	前期	◎共生論	◎英語Ⅰ △○哲学 △○情報処理演習Ⅰ	△○情報処理演習Ⅰ △○人間の理解Ⅰ	△○高齢者介護の基本 △○日常生活介護技術Ⅰ	△○介護実習Ⅰ	△○発達と老化の理解Ⅰ △○からだの理解 △○こころとからだのしくみⅠ	△○医療的ケアⅠ	◎社会福祉概論Ⅰ △手話によるコミュニケーションⅠ

※要請学年等は、変更になる場合があります。

◎卒業必修科目 △卒業選択科目 ○介護福祉士必修科目

こども学科 カリキュラムマップ

DPは、ディプロマポリシーを示します。

DP (1) 本学の目指す建学の精神「大乗仏教精神」に基づく共生の理念と「慈悲奉仕」を十分に理解し、自らの人格向上及び教育・社会福祉の増進に寄与できる能力を修得している。		DP (4) 各種専門職に必要な知識・技能を有し、保育者として社会と地域に貢献できる基礎的な能力・知識・技術を有している。						④主体的な学修の中で培われる創造的思考力を用い、実習を通じて総合的な保育実践力を身に付けると共に、自己管理および生涯に亘り学ぶ姿勢を継続できる。	
①保育の本質や目的について理解し、子どもや家庭に関する様々な問題に対し、「大乗仏教」、「共生」の精神に基づく自らの考えと社会的責任をもって、行動・表現することができる。		②子どもの発達や成長についての確かな知識を有し、教育・福祉、子育て支援の場において現実的で適切な対応ができる。		③子どもと家庭に関する知識、保育・教育に関する幅広い理論と技術を修得し、多様な環境にある子どもに対して協働的な態度でかかわることができる。					
		DP (3) 専門職としての高い倫理観と使命感を持ち、他者と協働できるコミュニケーション能力を有している。							
		DP (2) 現代社会における多様な問題に対して多面的な視点から論理的に分析し、問題を解決する能力を身につけている。							
教養科目		専門科目							
		保育士関係/教職(幼稚園教諭)関係							
保育士	建学の精神に関する科目	学部共通教養科目	保育の本質・目的の理解に関する科目	保育の対象の理解に関する科目	保育の内容・方法に関する科目	保育の表現技法	保育実習、総合演習	その他	
教職	建学の精神に関する科目	免許法66条6関係科目	教職の意義に関する科目	教育の基礎理論に関する科目 生徒指導・教育相談及び進路指導	教育課程及び指導法に関する科目	教科に関する科目	教育実習 教職実践演習		
卒業	○◇宗教	△経済学 △権利保護と成年後見制度 △情報処理演習Ⅲ △英語Ⅵ △英語Ⅳ	◇△保育者論	◆△子育て支援(地域と子ども) ◇△子どもの食と栄養 ○◆△教育相談(カウンセリング食)	○◆△音楽療法 ◆△病児・病後児保育 ◆△児童文化 ○◇△表現(リトミック)	○◇△図画工作 ●△生活	○◇総合演習Ⅱ(保育実践演習) ○教職実践演習 ▲保育実習Ⅲ ▲保育実習Ⅱ		
		2年			◆△音楽Ⅱ		▲実習指導Ⅲ ○▲実習指導Ⅱ		
1年	○◇共生論	△就職実践講座 △心理学 △文学 △英語Ⅴ △英語Ⅲ	◇△社会福祉 ◇△相談援助 ○△教諭論	●◆△障害児援助技術論Ⅱ ◆△発達心理学Ⅲ ◇△家庭支援論 ◇△子どもの保健Ⅱ ○◇△教育心理学 ○△教育社会学	◆△育児学 ◇△保育課程論 ◇△障害児保育 ◇△保育相談支援 ○◇△環境	●◇△幼児体育	○教育実習Ⅱ ◇保育実習Ⅰ-2(施設)		
		1年	○◇宗教	△就職支援講座 △生物学 ○△情報処理演習Ⅱ ○◇英語Ⅱ	◆△乳幼児福祉論 ○◇△教育原理	○◇△教育課程総論 ○◇△人間関係 △社会的養護内容 ○◆△身体表現	◇保育実習Ⅰ-1(保育所) ○教育実習Ⅰ	△海外福祉事情	
入学	○◇共生論	○◇△健康科学論 ○◇△体育実技		○◇△子どもの保健Ⅰ	○◇△乳児保育	○◇△音楽Ⅰ	○◇実習指導Ⅰ	○◇総合演習Ⅰ	
		○◇△哲学 △社会学 ○△法学(日本国憲法) ○△情報処理演習Ⅰ ○◇英語Ⅰ	◇△児童家庭福祉 ◇△社会的養護 ◇△保育原理	○◇△発達心理学Ⅰ	○◆△自己表現・グループ表現 ○◆△造形 ○◇△健康 ○◇△言葉 ○◇△教育方法論	○◇△国語			

※ 注意：開講学期は、所属クラスにより変更になる場合があります。

- 卒業必修科目
- ◇ 保育士必修科目
- 教職必修科目
- 育児セラピスト・ベビー・マッサー・インストラクター必修科目
- △ 卒業選択科目
- ◆ 保育士選択必修科目①
- 教職自由選択科目
- ▲ 保育士選択必修科目②
- 育児セラピスト・ベビー・マッサー・インストラクター選択科目

### Ⅲ 学科・委員会 点検・評価

※評価基準 以下の S～D の 5 段階評価で、年度当初の計画に基づいた各目標の評価を行う。

- S → 目標に対する達成率 101%以上・特筆すべき成果が上がっている
- A → 目標に対する達成率 100～80%・順調
- B → 目標に対する達成率 79～70%・概ね順調
- C → 目標に対する達成率 69～60%・一部改善の必要あり
- D → 目標に対する達成率 59%以下・大いに改善の必要あり

## 1. 社会福祉コース

### 1. 平成 29 年度目標に対する自己点検評価

評価する内容(目標)	評価	評価の視点	次年度に向けた改善点	備考
1, 2年カリキュラムの大幅な変更を図ることにより、学修成果の達成度を高める。	A	「OSCE(面接試験)」(6月)では1名が再試験、及び「C B T (知識試験)」(7月)は全員合格。	左記両試験のテストにおいて、昨年以上に良好な成績を修められるような指導に努める	
就職率 100%を維持する	A	就職希望者全員が就職でき、100%を維持した。 1名は大学編入。	継続的に就職率 100%を維持する	
資格取得(介護職員初任者研修、社会福祉主事任用資格、社会福祉士等)を活かした就職の支援を行い、就職先に関する満足度を高める。	B	資格を活かした就職内定率は 67%であった。	資格を活かした就職内定率の向上を図る。	
やむを得ない事情(健康状態、家庭の事情等)を除き、退学者をゼロにする。	C	今年度の退学者は1名であった。	やむを得ない事情を除き、退学者をゼロに出来るようきめ細やかな支援を行う。	

### 2. 平成 29 年度の活動の総合評価と次年度の活動計画に活かすべき課題について(自由記述)

資格を活かした就職内定率を高く維持するとともに、就職満足度についても考慮しながら就職支援を行いたい。

## 2. 医療事務・秘書コース

### 1. 平成 29 年度目標に対する自己点検評価

評価する内容(目標)	評価	評価の視点	次年度に向けた改善点	備考
医療事務関連資格及び簿記・情報関連資格の合格者数を前年より増加させる。	A	診療報酬請求事務能力認定試験 2人(28年度) → 7人(29年度) 医科医療事務管理士 26人(28年度) → 28人(29年度) 医療秘書検定 準1級1人、2級6人(28年度) →準1級3人、2級13人(29年度) 医事コンピュータ技能検定3級 28人(28年度) → 39人(29年度) 調剤事務管理士 12人(28年度) → 22人(29年度) 秘書検定2級 12人(28年度) → 5人(29年度)	本年度は、秘書検定を除くすべての資格試験において合格者数を増加させることができた。次年度においても、1年次から積極的に資格取得に向けての情報提供を行い、受験希望者には補講を行うなど合格に向けたフォローを実施し、合格者数を増加させたい。特に、本年度合格者の少なかった秘書検定については、対策を強化し、合格者数を増加させたい。	
大学病院、総合病院への就職者数を前年より増加させる。	S	14人(28年度) → 33人(29年度)	本年度は病院への就職者数が過去最多となった。次年度においても、ゼミ担当教員が履歴書やエントリーシートの添削、面接指導等を行い、また、キャリア支援室と連携し大規模病院の求人票を学生に提供するなど、学生に対して総合的な就職支援を行う。	
外部研究資金申請・取得率を前年より向上させる。	D	外部研究資金申請は行っていない。	科研費等の外部資金獲得を念頭に置いた研究活動を推進する。	



シラバスの組織的作成・統一化に取り組む。	A	教員間によるシラバスチェックを行い、シラバスの組織的作成・統一化に取り組んだ。	次年度のシラバス作成期間において、医療事務・秘書コースの専任教員間においてシラバスの点検及び組織的作成に取り組む予定である。
志願者数を前年より増加させるとともに、入学定員を確保する。	S	昨年度より志願者数が大幅に増加し、入学定員を確保することが出来た。	オープンキャンパスにおけるコース説明の内容を随時見直し、本コースの魅力をより効果的に訴求できるプレゼンテーションの方法を研究する。学科・コースブログを定期的に更新し、アクセス率の向上を図る。

## 2. 平成 29 年度の活動の総合評価と次年度の活動計画に活かすべき課題について（自由記述）

就職率については、4年連続 100%を達成することができた。また、病院への就職者数が 33 人と過去最高となった。次年度においても、早い段階から就職支援を行い、本年度と同等程度の水準を維持したい。資格取得についても、本年度は良好な結果となっており、次年度においても、予習・復習の徹底や授業内における検定対策を強化し、合格者数を向上させたい。科研費等の外部資金申請数が 0 件であったため、次年度においては、科研費等の外部資金獲得を念頭に置いた研究活動を推進し、申請件数を増加させたい。

### 3. 健康福祉学科 介護福祉専攻

#### 1. 平成 29 年度目標に対する自己点検評価

評価する内容(目標)	評価	評価の視点	次年度に向けた改善点	備考
やむを得ない事情(健康状態ならびに家庭事情など)を除き、中途退学者をゼロにする	A	1 年生、2 年生ともに中途退学者ゼロであった。	引き続き、個別指導ならびに教員間・他部署との連携を通して中途退学者を出さないよう学生と密に関わっていく。	
介護福祉士国家試験において 80%以上の合格率を確保する	B	平成 29 年度の合格率は 71.8%であった。	平成 29 年度は学内模擬試験 2 回、全国模擬試験を 2 回取り入れたが、平成 30 年 1 月の第 30 回国家試験の結果により模擬試験実施回数を増やすなど、必要に応じて試験対策の強化を図っていく。	
介護福祉士として求められる基本的姿勢や態度を身に付け実践できる学生を育成する。介護福祉実習において、実習態度に関する実習評価の項目が B 以上となる (A~D の 4 段階評価)	A	介護施設実習における施設評価は第 1・第 3 段階実習では 98.8%、在宅実習における施設事業者評価は 92%が B 以上の評価を受けている。以上のことから介護福祉士として求められる基本的姿勢や態度を身につけ実践できる学生の育成がほぼできたといえる。	介護総合演習ならびに社会福祉演習をはじめ学内において引き続きマナーや態度に関して指導を続けていく。平成 29 年度において C 評価を受けた学生もいることから、学生の状況に合わせた個別指導を強化していく。	

## 2. 平成 29 年度の活動の総合評価と次年度の活動計画に活かすべき課題について（自由記述）

教員間での連携を密に図り、毎月のコース会議以外でも学生に関する情報の共有化を全体で図った。  
遅刻や欠席がみられる学生には面談や声掛けを多くして、学生が相談しやすい雰囲気づくりに努めたが、不登校気味の学生も若干名おり今後更に個別対応、個別指導を深めていく必要がある。また健康上の問題を抱えている学生に関しては、プライバシーの保護を厳守しながらも保健室や学生相談室、学生支援センターの職員と連携を図り学生の相談に応じていきたい。  
介護福祉士国家試験受験に関しては、今回の国家試験合格発表の結果後、今後の教育・指導内容の検討を行っていく

## 4. こども学科

### 1. 平成 29 年度目標に対する自己点検評価

評価する内容(目標)	評価	評価の視点	次年度に向けた改善点	備考
免許・資格取得に向けた教育内容の充実とサポート	A	<p>本学科では、1・2年生の学修を重ねた成果として幼稚園教諭・保育士資格をはじめとする各種関連資格の付与を行っている。このため、2年間における必要単位の取得に遺漏がないように確認し、実習指導や実習巡回指導も含め、きめ細やかなサポートができた。</p> <p>その結果、免許・資格取得見込み者の割合は、幼稚園教諭二種免許取得率 88.8%、保育士資格 87.6%であった。</p>	<p>今年度の幼稚園教諭免許・保育士資格の取得率が、それぞれ 80%台の実績しか残せなかったが、次年度に向けて 90%以上の取得を目指して取り組むために次の改善策を講じていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミを中心に学生一人ひとりの特性を把握し学修のみならず生活面においてもきめ細やかな対応と支援を行う。</li> <li>・問題に対しては、教員一人で抱え込まず学科や学生支援部・保健相談室・学生相談室との連携し、その解決にあたる</li> </ul>	<p>参考までに、関連資格の取得率は、育児セラピスト 1 級 72.5%、ABM ベビーマッサー ジイストラクター 72.9%、ピアヘルパー 12.0%であった。</p>
多様な価値観を共有できる人材の育成	A	<p>本学の教育理念である「共生の精神」を学ぶことと、免許・資格を取得するうえでの必須科目になっている幼稚園・保育所および各種児童福祉施設での実習が義務付けられており、対象は児童年齢のみではなく広く高齢障害者への対応も行っている。また、「共生論」における共生体験により、地域交流イベントや学童クラブへの参加、さらに路上生活者や高齢者・障害者支援などを実施する機会が与えられた中から多様な価値観を醸成することができた。</p> <p>その結果、授業で行われる年間 2 か所の共生体験（共生論の履修者は</p>	<p>次年度も「共生論」の担当教員との連携とともに、ボランティアセンターからの情報の発信を受ける中で、共生体験希望者と共生体験場所とのマッチングが円滑に行われるよう、学科としても総力を挙げて取り組んでいきたい。このことから、引き続き多様な体験が蓄積される中で、多様な価値観の醸成が図られるものと思われる。</p>	

		100%) と同時に、ボランティアセンターを活用した共生体験を行ったことも学科の学生は、延べ 163 名 (65.2%) に上っている。		
--	--	--	--	--

## 2. 平成 29 年度の活動の総合評価と次年度の活動計画に活かすべき課題について（自由記述）

今年度における、こども学科の教育活動の評価として三点にわたる活動計画に基づき学科における教育活動を行ってきたが、おおむね目標に対する評価としては、ほぼ達成することができた。

次年度の「こども学科」としての教育活動の課題として、次の課題への取り組みが望まれる。

- ・ 免許・資格取得率向上への、きめ細やかな対応と修学支援
- ・ 「免許状更新講習」
- ・ 「東京都保育士等キャリアアップ研修事業」

## 5. 募集・入試委員会

### 1. 平成 29 年度目標に対する自己点検評価

評価する内容(目標)	評価	評価の視点	次年度に向けた改善点	備考
出張講義の回数を前年度より増加させる。	A	5回(28年度)→8回(29年度)	昨年度より出張講義の回数が増加した。次年度においても出張講義を積極的に受け入れ、高い水準を維持したい。	
オープンキャンパスの目標来場者数を達成する。	B	目標来場者数に対する達成率は71%であった。	オープンキャンパスの目標来場者数は71%と低い水準に止まった。プロモーションについては改善を加えながら戦略的に行うとともに、オープンキャンパスのプログラムの質を向上させ、参加者の満足度を高める。それにより、リピーター参加者を増加させる。	
入学試験志願者数の目標値を達成する。	B	志願者数の目標値に対して達成率は以下の通りとなった。 こども学科は達成率69.5% 社会福祉コースは達成率83.3% 医療事務・秘書コースは達成率144% 介護福祉コースは達成率68%	ガイダンスへの積極的参加、高校、予備校や塾への訪問回数を増加させ信頼関係を構築する。高校生は高校の教員から大学を勧められる場合も多いため、高校との関係は今まで以上に強化する。学科・コースブログを定期的に更新し、HPアクセス数の向上を図る。奨学生A0入試や地方入試(仙台)の実施により、志願者数の増加を図る。	
入学定員を確保する。	A	入学定員に対する入学者数の達成率は以下の通りとなった。 こども学科は達成率95.8% 社会福祉コースは達成率110% 医療事務・秘書コースは達成率105% 介護福祉コースは達成率80%	上記活動を確実に行うことにより、入学定員を確保する。 一方で社会福祉専攻については、収容定員を大幅に超過する可能性があるため、次年度においては入学者数を抑制するなど調整を図る必要がある。	

ホームページの閲覧数を前年より増加させる。(Google アナリティクスによる時系列的比較を実施)	A	セッション 115,571 回 (28 年度) → 100,512 回 (29 年度) ユーザー63,521 回 (28 年度) →58,542 回 (29 年度) ページビュー数 361,530 回 (28 年度) →382,230 回 (29 年度)	学科・コースブログを定期的に更新し、HP アクセス数の向上を図る。SEO 対策を実施し、アクセス数を増やす。	
資料請求者数 (入学案内) を前年より増加させる。	A	5,297 名 (28 年) →5,202 名 (29 年度)	上記によりホームページのアクセス数を増加させる。	
オープンキャンパス参加者の出願率を前年より向上させる。	A	オープンキャンパス参加者の出願率 37.8% (28 年度) →42.2% (29 年度)	オープンキャンパスの質を改善し、出願率を向上させる。	

## 2. 平成 29 年度の活動の総合評価と次年度の活動計画に活かすべき課題について (自由記述)

出張講義については、前年より実施回数が大幅に増加した。次年度においても出張講義依頼を積極的に受け入れ、出張講義の回数をできる限り増加させる。オープンキャンパスの目標来場者数の達成率は 71%に止まっており、次年度においてもホームページやダイレクトメールなどのプロモーションツールを効果的に活用し、オープンキャンパスの来場者数を増加させる。また、本学の学びに興味を持ってもらえるように、オープンキャンパスのプログラムの質の向上を図る。介護福祉コースの入学者数は昨年よりは増加したものの、専攻ベースでは定員を確保できていないため、引き続き、募集活動を強化し、志願者の増加を図りたい。

## 6. 教務委員会

### 1. 平成 29 年度目標に対する自己点検評価

評価する内容(目標)	評価	評価の視点	次年度に向けた改善点	備考
学生用授業評価アンケートの実施について	A	アンケート実施の周知等も含め、概ね順調である。	評価結果の活用について、方向性を模索する。	
学生の授業の遅刻・欠席に関する統一基準について	B	統一基準は学生にはほぼ浸透したが、一部で基準に対する意識が希薄化している。	評価レベルを上げるための方法を委員会等で協議する。	
学生の授業出席状況に関する問い合わせルールとその対応について	A	問題なく運用されている。	本ルールに対する学生の満足度を把握する。	
学生の学びに対する適切な評価と水準の維持	D	適切な評価はなされているが、“水準維持”は不透明となっている。	水準の維持が要検討課題である。	

### 2. 平成 29 年度の活動の総合評価と次年度の活動計画に活かすべき課題について（自由記述）

本年度の自己点検評価結果を踏まえて、次に向けた目標の内容と方向性を再点検し、必要に応じて目標の内容を調整する。特に、評価の低かった「学生の学びに対する適切な評価と水準の維持」については、委員会のなかで十分に協議する必要がある。



## 7. 学生委員会

### 1. 平成 29 年度目標に対する自己点検評価

評価する内容(目標)	評価	評価の視点	次年度に向けた改善点	備考
新入生のセミナー準備と運営	S	建学の精神について理解し、自校教育を行うことができた。また、大学生活全体について理解を深め、学生相互や教員との親睦・交流をはかることができた。	大学生活についての理解、学生相互の交流などを深められよう、学生主体となる魅力あるプログラム、実施日程や場所を検討する必要がある。	
体育祭準備と運営	A	約一ヶ月で両学科の1・2年生が話し合いながら事前準備と当日の運営を行った。天気に恵まれ大きな怪我もなく、参加者全員満足できる体育祭となった。	体育祭当日は、就職活動やこども学科2年生の教育実習前であるため、体育祭の日程や競技プログラム、実行委員学生の宿泊を検討する必要がある。	
淑徳祭の準備と運営	B	人文学部と短期大学部の両学生が半年間かけて話し合いながら、実行委員会本部会と実行委員会を開催し、準備・協力して運営し、参加者全員が満足する学園祭となった。	火気の取り扱いはこれまで以上に十分な注意喚起を行い、4・5号館への入出場経路など、外部の利用者に分かりやすい経路案内などを検討する。 パンフレットについて検討する。	
学生の就学意欲の維持への支援	A	学生相談室と連携しながら、学生の就学継続に向けて検討を行った。欠席が目立つ学生はゼミ担任が把握し、学科全体で対策を検討した。	学科で把握した欠席が目立つ学生について、ゼミ担任を中心に学生相談室などと連携しながら、就学に向けて対応する。	

## 2. 平成 29 年度の活動の総合評価と次年度の活動計画に活かすべき課題について（自由記述）

淑徳祭の準備と運営は人文学部・短期大学部と合同で行い、人文学部と短期大学部の両学生が話し合いながら協力し、全員が満足する学園祭になった

淑徳祭 1 日目夜からの強風により 4 号館前の模擬店が倒壊したが、淑徳祭実行委員の学生や職員の協力により 2 日目開催前に片づけが終わり、倒壊したテントの模擬店はテニスコート内で再開することができたが、今後は強風や雨・寒さ対策と安全対策について検討していく必要がある。

体育祭開催時期は 2 年生の就職活動と重なり、教育実習前であるため、怪我に注意し、全員が楽しめる競技を検討していく必要がある。

## 8. 図書委員会

### 1. 平成 29 年度目標に対する自己点検評価

評価する内容(目標)	評価	評価の視点	次年度に向けた改善点	備考
入館数の増加	S	2 月末現在 22,435 人 (人文学部共有) であった。(昨年同時期 19,777 人)	学生目線の企画展示を行っている。	
貸出冊数の増加	S	2 月末現在 1,708 冊であった。(昨年同時期 1,717 冊)	授業と連動し図書館で資料を手に取ったの講義の実施依頼を企画。	
学生図書委員の協力依頼	A	「遥鈴」のリニューアルをし、学生の図書館への協力強化	図書館広報誌「遥鈴」の原稿依頼、学生「選書ツアー」の参加依頼を通じて学生が「図書館」行事の協力依頼。	

### 2. 平成 29 年度の活動の総合評価と次年度の活動計画に活かすべき課題について (自由記述)

平成 29 年度は特筆すべき項目はないが、図書館のラーニングコモン計画を推進したい。

## 9. 紀要委員会

### 1. 平成 29 年度目標に対する自己点検評価

評価する内容(目標)	評価	評価の視点	次年度に向けた改善点	備考
紀要 57 号、58 号の発行	A	紀要第 57 号(特別号・再課程申請に関する)、第 58 号を滞りなく発行できた。	57 号が査読の経緯で若干遅れたが、次年度は締め切りを厳守し校正・印刷の計画を遵守。	
多様な原稿の種別、掲載区分などの検討	A	研究ノートなど、継続的・試論的な原稿種についての可能性を検討し、掲載できた。	報告書や書評、資料など掲載原稿の種別を規定する内規、投稿規程に関して要検討。	
査読の基準、形式に関する検討	A	現状の査読の形、基準などの課題について委員会内で共有、意識化できた。	査読基準、執筆の要綱なども合わせた査読の指標等を継続的に検討する。	

### 2. 平成 29 年度の活動の総合評価と次年度の活動計画に活かすべき課題について(自由記述)

紀要発行に関しては年二回の目標を達成できた。但し、締め切りの関係から第 57 号に至っては若干ずれ込み、また印刷過程での齟齬から掲載区分の誤記が生じた。締め切りの徹底、査読、校正、印刷・発行の綿密な計画・見通しが必要だと考えられる。

掲載原稿の種別の多様化や執筆規程、査読の基準に関しては委員会内で意見を募り、現行の文言に素案として加筆等を行う段階にまで至った。次年度以降、具体的な各種執筆・投稿規程等の素案、全国の学会誌等を参考にした査読に関する「基準票」の更なる改定を検討・実施すべく審議していく必要がある。

## 10. ボランティアセンター運営委員会

### 1. 平成 29 年度目標に対する自己点検評価

評価する内容(目標)	評価	評価の視点	次年度に向けた改善点	備考
短期大学のボランティア継続性を上げる	A	共生論で必須となっているボランティア活動後に短期大学部で自発的にボランティアを継続した学生は 55 名であり、学生数の 8%が継続した活動を行なっている。昨年の 6%からアップした。なお、ボランティア経験者は 100%である。	自発的にボランティアを行う学生を増やす。そのためには継続しやすい学内、および大学近隣の活動を活発化していく選択肢が有効だと思われる。	
学生主体の活動を生み出す土壌作り	S	学生のボランティア活動助成制度を新設した。サークルやグループ単位でのボランティアの計画を助成するフローチャートが完成した。	ボランティア活動助成制度が活用されるよう学生への周知が必要である。学生の応募がなされるようアドバイス、コーディネートが必要である。	
地域と密に連携を図ったセンター運営	A	地域の団体と連携して行なっている事業、催しは現在、12 件行っている。連携数としては順調である。	ボランティアセンターのマンパワーを考えるとさらなる拡大よりは既存の団体との連携の質を高めていくことが更なる社会への貢献につながる。	

### 2. 平成 29 年度の活動の総合評価と次年度の活動計画に活かすべき課題について（自由記述）

1 年次にボランティアを体験しているため、ボランティアについての理解がなされている。今年度のボランティアセンターニュースのアンケートで明らかになったことは、ボランティアの継続について①継続して行いたい。②継続したいが時間がない。③継続したくない。という 3 つに意見に分かれることである。②の意見では、就職後役に立つなどメリットを感じているものの時間的余裕がない、という意見ときっかけがない、という意見が多い。まずは②の意見を持つ学生へのアプローチを検討したい。具体的には活動の紹介、友人グループ単位での働きかけなど工夫をする必要がある。

## 1 1. 自己点検・評価委員会

### 1. 平成 29 年度目標に対する自己点検評価

評価する内容(目標)	評価	評価の視点	次年度に向けた改善点	備考
短期大学の自己点検・評価の実質化に取り組む。	C	短期大学の改革の一環として掲げた 29 年度教育・研究・管理運営等に関する目標・成果指標が、試行期間とは言え十分に浸透が図れず、学科・委員会等活動計画に反映しきれなかった。	本稼働となる 30 年度教育・研究・管理運営等に関する目標・成果指標を学科・委員会等活動と自己管理目標制度にリンクさせる。	
学科・委員会等の活動計画、中間報告、活動報告を、年 3 回にわたり確認する。	A	学科・委員会等の活動が 1 年間を通して PDCA サイクルで稼働する仕組みが確立できた。	30 年度の学科・委員会等の活動計画が、自己点検・評価の視点から補助金獲得に繋がるようにする。	
認証評価受審に向けた取り組みを始める。	B	32 年度の認証評価受審に向けた自己点検・評価報告書の作成に取り組むことができたが、29 年度年報については材料集めの段階である。	自己点検・評価報告書の原案作成を急ぎ、完成度を高めるとともに、29 年度の自己点検・評価の取り組み状況を年報に反映する。	

### 2. 平成 29 年度の活動の総合評価と次年度の活動計画に活かすべき課題について（自由記述）

29 年度は自己点検・評価の一環として、学科・委員会等活動と自己管理目標制度の導入を図り、1 年間試行期間として運用した。当初の目標は達成されたが、30 年度からは本稼働となるため、補助金の獲得に向けて活動の実質化に取り組むことが求められる。

## 1 2. 教職運営委員会

### 1. 平成 29 年度目標に対する自己点検評価

評価する内容(目標)	評価	評価の視点	次年度に向けた改善点	備考
教職再課程認定の申請に向けて、年 3 回以上、前期 1 回、再課程申請プロジェクトとしての協議の場を設ける。	S	協議の場は、前期 2 回 (4/23, 7/27)、後期 2 回 (11/9, 12/7) 設けられ、年 4 回、協議が実施された。 (目標 101%以上達成)	教職再課程認定の申請後、監督官庁である文部科学省からの教職課程認定の通知に応じた対応を行う。指導があった場合は、随時、協議を行う。	
教職再課程認定の申請に向けた書類に関わる内容を決め、新たなカリキュラムに対応した科目を決定する。	A	教職再課程認定の申請に向けた書類に関わる内容を決め、教職の新課程に対応させた科目を決定した。(目標に対する達成率 100~80%・順調)	教職の新課程後に対応させた科目について、保育士養成の新カリキュラムに基づく科目との調整、今後の教職科目の方向性について検討を行う。	

### 2. 平成 29 年度の活動の総合評価と次年度の活動計画に活かすべき課題について (自由記述)

教職再課程認定の申請に向けたプロジェクトとして、目標以上の協議の場を設けられたことは高い達成率として評価できる。また、教職再課程認定の申請に向け、教職科目のシラバスチェックなどを行い、教職の新課程に対応させた科目を決定できたことも目標達成として評価できる。次年度の活動計画に活かすべき課題は、文科省への教職再課程認定の申請後の対応、教職科目の保育士養成の新カリキュラム科目との調整である。具体的には、教職再課程申請について文科省から指導があった場合には随時、協議の場を設けること、教職科目が保育士科目とできるだけ共通の科目となるよう調整を行うことが課題である。

### 13. ハラスメント防止委員会

#### 1. 平成 29 年度目標に対する自己点検評価

評価する内容(目標)	評価	評価の視点	次年度に向けた改善点	備考
ハラスメントに関する教職員研修を2回以上実施する	D	教職員研修は1回のみで止まった	次年度は、ハラスメント研修の内容を検討するとともに最低2回以上研修を実施する。	
ハラスメントに関する学習会を実施する	D	学習会は実施できなかったが、パンフレットの作成について、企画・検討を行った。	人文学部と協議のうえ、ハラスメントに関するパンフレットの作成を行う。	

#### 2. 平成 29 年度の活動の総合評価と次年度の活動計画に活かすべき課題について（自由記述）

ハラスメント研修の充実を図るとともに、ハラスメントに関する学習会やパンフレットの作成に取り組む。